

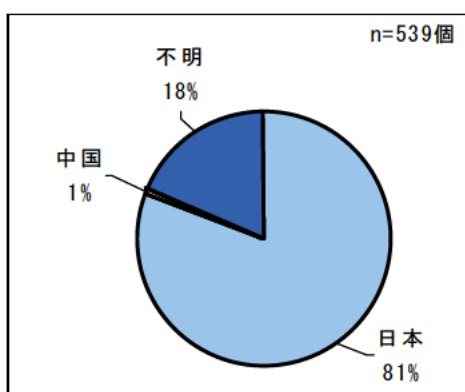
巻末資料-5 ペットボトル・ライター調査

「環境省モデル調査」では、鳥羽市の答志島（奈佐の浜）に漂着したペットボトルとライターに記載された情報から、その発生国を推定しました。

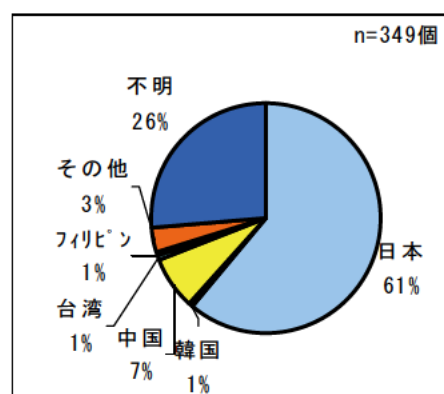
表1 ペットボトル・ライター調査の内容

項目	調査内容
調査目的	答志島に漂着したペットボトルとライターから、発生源を推定し、国内及び国外の比率の推定を行うことを目的としています。
対 象	答志島の奈佐の浜で回収されたペットボトルとライター
調査時期	平成 19 年 12 月～平成 20 年 10 月に実施した 5 回の調査で回収された物を対象としています。
回 数	調査 5 回分を合算し分析をしています。
調査内容	刻印を調べ、発生源を類推しています。
調査結果	<ul style="list-style-type: none"> ● ペットボトルは、日本製が 81%で、中国製が 1%でした。不明個体もこの比率と仮定すると日本製は 99%と推定されました（図 1）。 ● ライターは、日本製が 61%、中国製が 7%、韓国製、台湾製、フィリピン製がそれぞれ 1%、その他海外が 3%でした。不明個体もこの比率と仮定すると、日本製が 82%と推定されました（図 1）。 ● ペットボトルとライターを合わせて考えると 90%以上が、日本国内製となり、海岸クリーンアップ調査結果と同様な結果と言えます。
考 察	答志島に漂着するごみは、9 割以上が国内由来であり、先のライター調査結果を合わせて考えると、伊勢湾流域圏からのものと推定されます。発生抑制対策を実施するには、三重県単独ではなく、他県も含む広域的な取組が重要であると考えられます。

<ペットボトル>



<ライター>



※ 国の区分は2品目とも本体表記の言語、ライターは底面・風防の刻印等より判断
第2～6回調査（2007年12月～2008年10月）の結果を集計

出典：平成 19・20 年度漂流・漂着ゴミに係る国内削減方策モデル調査地域検討会（三重県）報告書（環境省）

図 1 鳥羽市の答志島（奈佐の浜）での漂着ごみの国別割合